

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)				
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制				
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	地域づくりアドバイザー3名	<p>地域毎に成熟度と必要な支援が異なるため、担当地域を設けずに、ニーズに応じた支援を行うことは有効である。</p>	<p>一律に地域分けしていないことから、成熟度に応じて必要な支援を行ってきたことが、成果としてあらわれてきたものと考えている。</p>	<p>地域と大学、企業との連携については、地域づくりアドバイザーの支援効果があらわれるのに一定の期間を要し、短期的に可視化することが困難なことから、地域づくりアドバイザーのモチベーション維持のためにも短期の目標設定が必要である。 また、これまで地域協働担当が大学や企業との間に構築してきた関係を活かし、地域協働担当だけでなく他の部署とも連携した取組を地域に拡げていくことが有効と考えられる。</p>
(3)区のマネジメントに対応した取組				

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
自主財源確保の取組支援	取り組みやすい自主財源の確保の手法や、CB/SBの手法を例示しできないイメージを払拭しながら取り組みを進めていくことと合わせて、大阪市民活動総合ポータルサイトの活用をはじめ、様々な財団等の助成金を紹介していく。	コミュニティ回収の進め方について、他区の事例を収集し、普及促進の準備を行った。 3地域がコミュニティ回収に興味を持っており、説明会の日程を調整中。 コミュニティ回収のほか、大阪市民活動総合ポータルサイトの活用についても認識を上げていただきたい。	区内でコミュニティ回収の取組例が増えてくと、徐々に進むと思われる。 口コミによる取組の拡がりは有効であると認識しており、区内で先行的に取り組まれた事例を共有する場を設定していただきたい。	まずは興味を持っている3地域の支援をしっかりと行う必要があるが、自主財源確保の必要性を感じていない地域もあるため、意識改革も合わせて進めていきたい。 上記3地域の支援を行うとともに、自主財源の確保により活動(取組)の幅が拡がることを地域に浸透させていただきたい。
地域と大学、企業等の連携	①地域へは、大学が提供できるコンテンツ(プログラム)を告知し、大学へは、地域ニーズの分析を提供。両者が共に課題解決に向けて協働するスキームを企画提案する。 ②地域課題の解決を願う地域と、貢献活動に関心のある企業・学校機関・NPO・個人等が意見や情報の交換ができる場を設けることで、連携・協働が促される機会の場づくりを行う。	①区内大学主催の健康増進イベントのコーディネートおよびコンテンツ制作のサポートを行いながら、区役所の保健師と区内医療法人よどまちステーションの参加のコーディネートを行った。庁舎内のチラシ配架および地域への周知を行った。 また、同大学の授業「地域社会調査」では、東淀川区の企業、各種団体等を対象にリサーチを実施した。成果発表の場に参加し、先生と学生に具体的な地域活動の現状を共有することができた。 ②多様な協働の推進、ネットワークの充実を目指し、第一回東淀川みらいEXPO～東淀川“ええもん”博覧会～を開催。社会資源(東淀川区を事業・活動エリアとする多様な組織の独自性や魅力)を浮き彫りにするとともに、組織間の連携の拡充をコーディネートした。 ・「東淀川区民会館」にて、区内事業所が参加するイベント企画案検討 ・「お茶もりえん、喫茶室はら」へ「閑神戸屋」が、新規パン検討のためのヒアリングを実施。 ・「かみしんプラザ」、会場内ラックにて地域情報誌の設置、ワークショップスペースにて地域活動に関するワークショップ実施にむけて検討。 ・「下新庄地域、林氏(子育て支援ボランティア)」と「プラスワン防災」マッチング。 ・「閑ソレイユ(こどもの居場所vivaスタッフ)」と「ベルエベル専門学校」マッチング。 出席:30名(企業商店など12名、学校3名、公益法人など等8名、福祉施設4名、個人3名) 地域活動協議会を構成する団体以外との連携が、多くの地域活動協議会では進んでおらず、区内に大学が2つある強みや、企業連携を進めることについて、情報発信と場づくりが、繋ぎの拡充のために必要な支援であり、引き続きの取組をお願いしたい。	①同イベントには地域住民や連合振興町会長も参加され、住民の健康増進への関心が高まっていることについて認識を共有することができた。また、学生が地域活動に興味を持つ良い機会にもなったことから、地域と大学、企業の連携のきっかけとして一定の効果があつたと思われる。 ②ワークショップの結果、資源の要素144個、行動アイデア39個)が集まり、今後の具体的な活動計画案も誕生した。 アンケート:「参加者満足度91%」「つながりたい人がいる95%」	①短いスパンでしか関わりが難しい学生と地域活動の主体者との相互利益を得られるシチュエーションとしては、特定の課題について刺激しあう仕掛けが必要だと考えており、関係が築けてきた大学の先生と企画していきたい。 ②第一回では、企業やNPO、教育機関などをコアターゲットとして広報展開し、概ね予想通りの事業主体に参加いただいた。具体的な行動計画案が生まれたことも大きな成果であった。 第二回の開催に向けて、地域住人をコアターゲットに変更し、防災をテーマに12月に実施予定。第1回参加者へも周知し、地活協と他組織とのネットワークの充実を目指す。
地域カルテ作成支援	平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴を網羅したレポートを作成し、地域カルテの作成支援を行う。	地域の状況を定量的・相対的に共有するため、平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴や、年齢別人口の推移をまとめたレポートを作成した。 作成された資料は非常に重要かつ有用であるため、下半期に向けて地域活動協議会の地域カルテ作成支援として取り組んでほしい。	作成したレポートを用いて、これまでの取組とこれから必要な取組について、当事者として考えてもらおう一歩となること期待できる。 担い手の減少が課題としてあげられているが、一方で行事等の棚卸ができていないことが原因でもある。急速に環境が変化していくことを考慮し、これからの取組を考える機会として、地域カルテ作成支援を行っていただきたい。	地域カルテ作成の支援として、下半期から各地域活動協議会に接触していく。 非常に重要な取組であるものの、地域版保健福祉計画策定の関わりにおいても、各地域活動協議会の反応は様々であった。特に、区役所からの押し付け感やさらなる負担感を感じる地域や、現状以上の取組が困難だという地域については、しっかりと成熟度をみながら、職員と連携し接触を図っていただきたい。

<p>新たな人材と区の魅力発見</p>	<p>住民自らが主体となって東淀川区の魅力を発見・発信することを狙いとした東淀川区魅力発見プロジェクトを立ち上げた。埋もれていた魅力を見つけ、発信する活動のなかで、新たな連携が生まれることや、プロジェクトメンバー自身が地域のにぎわいづくりの人材として活躍されることが期待される。住んでいる地域の魅力を5つ以上挙げられた者の75%がまちをよくするために活動したいと答えているアンケート調査もある。</p>	<p>・打ち合わせ会議(上半期計7回開催) ・「東淀川で発見ものづくり現場拝見ツアー」実施(5/12) 参加者数:14名 アンケート:東淀川区が魅力的なまちだと感じた割合100% ・「テーブルまち歩き～小松・瑞光・昭和の賑わい」を開催(8/26) 参加者数:15名 ・アンケート:東淀川区が魅力的なまちだと感じた割合100%</p>	<p>2年目となる取組で、区内の様々な機関との協働が実現してきている。区内の企業や商店街会長と連携した取組が生まれた。阪急各駅の掲示板にポスターを貼ったことで、区外からの参加者が増えた。イベントの様子が大阪日日新聞に掲載された。イベントには地域活動協議会会長や連合振興町会長も参加され、地域での取組や、個別地域での開催に繋がると面白いという意見も頂戴した。</p>	<p>・東淀川区魅力発見プロジェクトの各事業はこれまで区内の企業、大学、図書館、寺社、商店(街)などと協働して事業を進めてきたが、地域活動協議会など地域団体との協働の可能性も具体的に見えてきた。実績も重ねており、これからも新たな人材が集まる場としてコーディネートしていきたい。 ・魅力発見プロジェクトの認知度向上を図るためポスター作成を支援する。 ・2、3年の間に財政面と事務局機能も自立したプロジェクトをめざしており、事務を行う人材や組織のリーダーになる人材の育成にも着手していく。</p>
<p>地域活動協議会の広報力向上</p>	<p>充実した広報を行うことでもたらされるメリットを伝える。広報担当者向けの学習会を開催することで、広報活動の重要性和魅力的な広報紙の作り方を学び、より効果的な広報活動ができるきっかけをつくり、地域活動協議会全体の情報発信力の向上や認知度をあげていくことをめざす。</p>	<p>上半期は、個別地域支援を中心に実施した。 ・ホームページ作成サポート(小松地域) 現在広報担当者の事情により中断している。 ・フェイスブック作成サポート(豊新地域) ・公共人材によるロゴマークづくり(豊新地域)</p>	<p>・豊新地域フェイスブックは、作成の後、「ホームページとの連動」や「情報拡散のヒント」など、情報の拡散に寄与している。地域公共人材を活用し、単にロゴマークを作るだけではなく、地域住民や子ども達からアイデアを募集する取組として住民が参画できる取組に発展している。</p>	<p>「広報媒体の多様化」と「地域活動の広がり」は、関連性がある。例えば、今年度新たにフェイスブックページを立ち上げた豊新地域は、役員も若く、様々な地域資源との協力を意識して、事業を行っている。また、小松地域は、区内の地活協で唯一フェイスブックのいいねが200を超えている地域である。地域ビジョン⇒事業計画⇒広報活動は同一線上にあるが、それを堅苦しくなく、面白く学べる学習会を、地活協の広報担当者をメインターゲットに下半期に開催予定。</p>
		<p>丁寧な個別支援は非常に重要だと考えている。SNSによる双方向の情報発信ができることのメリットを引き続き伝えていただき、残り6地域への取組の支援についてもお願いしたい。</p>	<p>当区では初めてとなる地域公共人材の派遣で、現在のところ非常に楽しく有意義に進められていると地域からも聞いている。引き続きの支援と、取り組まれた内容の横展開についてもお願いしたい。</p>	<p>学習会の開催によって生まれるであろう個別地域のニーズへ支援をお願いしたい。 また、電子媒体による発信は、行事の告知や、民主的で透明性のある組織運営であることの認知向上に有効であることを地域活動協議会に粘り強く伝え、取り組まれるよう支援していただきたい。</p>